

最優秀賞に山田千歌子さん 新成人者感想文

ことし成人式を迎えられた新成人者の意見、人生や社会、政治観など「成人となって」の感想文をさきに募集していただき、約二十人から感想文が寄せられました。

それぞれ二十歳の喜びと、成人への期待と決意、その心情のあふれたものがかりでした。審査の結果、最優秀賞に廿枝の山田千歌子さんの感想文が、優秀賞に朝日町の山本雅秀君、西野田の岩本香代さんの二人の作品、佳作に片山の岡上礼子さん、西島の岡林ふみさん、柴町の川田澄子さんの



山田千歌子さん

作品がそれぞれ選ばれました。最優秀賞となりました山田さんの感想文は

「正しく、真心のこもった心あたたかい人間に、若い世代を育ててはくむべきとおとしよりを大切に育む世の中にしてほしい」と心あたたまる若い女性としての



賞金を

「土佐希望の家」に 岡上さんの善意

新成人の感想文に応募し、佳作となりました岡上礼子さんの写真(片山・美容院勤務)さんから、年越山に建設中の重症心身障害児の養護施設「土佐希望の家」の資金として役立たせていただきました。

と根性と信念のある人生に生きがいを感じています。実社会での活躍を期待します。

同じ優秀賞の岩本さんは、交通事故や選挙違反を起こすのは、人間尊重の精神に欠けている。他人を尊重、他人を尊重することによって自分を大切にしたい。人間を尊重することは社会をよくするものである。社会や自分をよくしたいという気持ち

持ちがよく生きています。これからの人生を力強く生きてください。佳作となりました岡上さんは、中学を出てすぐ実社会に入ったことの精神的な悩み、苦しみ、灰色に思った人生が、五年の努力がみもって、自分の職業(美容師)にほころびができて、バラ色の人生に変わったという実感のこもったものです。残念なことには文がややぎこちなく、佳作となりました。

第4回農業大学
2月18日
—20日
AM 9.30 ~ PM 4.00
企業の農業への
考察をしよう
朝日生命ビル3階

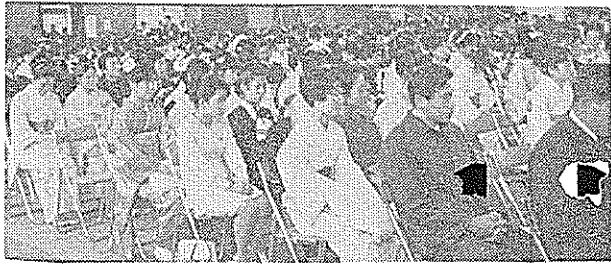
市社協へ香典返し

故 八井田氏遺族から

生前、県や市の社会福祉の面で多大の貢献をされました上廿枝の故八井田茂実氏(医師、前市社会福祉協議会長、同民生委員協議会長、元市議会議員)の遺族から、このほど市社会福祉協議会と県老人クラブ連合会に対して、香典返しとしてそれぞれ十万円が贈られました。

晴れておとなに 祝福された七百六十八人

新しく成人となった人々を祝福し、その自覚を高め励ますための成人式は、一月十五日、市民体育館に約五百人の新成人が参加して行なわれました。



(写真=あつまったはたちの大人)



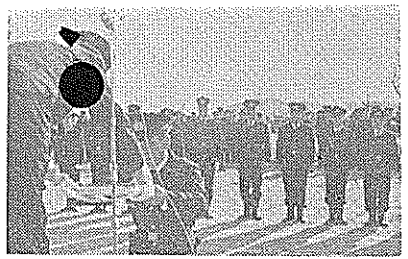
(写真=赤ちゃんとともに)

☆出初め式

恒例の消防出初め式は、一月六日、午前八時から久礼田小学校校庭で、十二分間、三百人が参加して行なわれ、服装、装備の点検、南海分団などの模範操法のあと、ホース巻き、つるべ落としなどの消防競技を行なった。優良団員の市長表彰を行ない、午後三時すぎに終了しました。

なお、消防競技の成績、表彰された優良団員はつぎのとおり。

- 一位 北部分団 二位 岡豊分団 三位 東部分団
- ▽優良員 △
- 高島田道雄(日章)
- 杉本 守正(香南)
- 西尾 豊喜(同)
- 中司 弘光(上倉)
- 宮本 静夫(同)
- 西川 豊範(同)
- 寛 幸蔵(岡豊)
- 萩 彰(同)
- 清淵 哲彦(琴平)
- 村田 武夫(同)
- 星沢 隆(西部)
- 池知 和彦(東部)



(写真は優良団員の表彰)

市社協会長に 利岡 富次氏

民協会長に 松下 仁氏

市の民生委員協議会の統合と同研修会は一月二十四日、中央公民館で開かれ、八井田前会長の死亡による、会長に松下仁氏、また副総務に豊永茂春氏を選出しました。



つづいて研修会に移り、これからの民生委員活動を適切かつ活発に行ない、福祉事業の推進をはかることへの申し合せをしました。

なお、市社会福祉協議会は、八井田会長の後任として利岡富次氏が会長に就任されました。

優秀感想文

私が最近、特に感じ、悲しいと思うことは世の中全体が、老人を邪魔者扱いしていることだ。考え方が古いとすぐ若い世代は言うが、生まれ育った時代が違うのだから、それは仕方ない事だ。しかし、昔も今も人間の真心は変わるものではないと思う。だから私は今の世の中が新しいと思えない。昭和元禄といわれるいま、あまりにも真心を失い、狂った人間が多いことか。

現代の風潮は、年老いた人は養老院へ行くのが当たり前といったふうにとれる。いつか、テレビニュースで養



成人となって

廿枝 山田千歌子

身寄りのない老人は別として、もその中には面倒をみてくれるわが子がいる人もあるだろう。心の中で、たとえ貧しくても、息子や、嫁や孫たちと食卓を囲み、笑いながら新年を迎えたかったと、泣いているのではないだろうかと思うと、私は

だけを残すその人たちは、どうすればいいのだ。人間としての真心があれば、それがいかに深い悲しみであるかわかるはずである。私の父母もまた、明治生まれのわからずやである。自分を犠牲にしてわが子の成長を夢みて生きている。

と否定できるであろう。子のために生きる—それは、尽くすという言葉を忘れてしまった私たちの心に、古いといわれる老人たちが、父が、母が教えてくれる人間の生き方ではないだろうか。

古いから何の役にもたないからといって邪魔者扱いだ。長い人生を耐えて生きて、得たものが、悲しみだけなんてことがあってよいものだろうか。

私は、いくら金があっても、物質的にめぐまれても、心のあたたかさを知らない人間にはなりたくない。正しいことが、正しいこととして通らない。悪いことが、悪いことにならない。そんな世の中だからこそ、私は、人間としての自分を見つめ直してみたい。

そして若い世代みんな、年老いた人々をあたたく包んであげられる世の中をつくりたい。

(写真は山田千歌子さん)

よみましょ。みましょ